

国語科研究部会

I 研究テーマ 「自ら学ぶ国語科学習のあり方」

II 研究テーマ設定の理由

本部会では、子ども一人一人に「生きる力」を育成するために、その基盤となる国語科の中で自ら課題を見つけ、その課題に対して自分なりに解決方法を考える力や考えようとする意欲を育てること、すなわち「自ら学ぶ力」をつけさせることをめざし、研究を進めてきた。

各自が持ち寄った実践を検討したり、共同研究を行ったりする実績の積み重ねは、部員一人一人の日々の授業に少なからず刺激を与えている。年々広がりや深まりを見せている現状をふまえ、継続して同じテーマでの研究を実施していくことが必要であると考え、本部会においてはここ数年同じテーマによる研究をおこなってきている。

III 研究経過と内容

国語部会では、研究したい内容によって「作文」と「読解」という2つのグループに分かれて研究を行っている。

研究経過については以下の通りである。

- 4月10日 部会の組織づくり（役員・研究テーマ・班別研究テーマと研究計画の決定）
- 5月15日 年間研究計画作成 授業研究についての検討
- 6月17日 各グループ毎の研究（レポート提案・授業研究提案）
- 8月 7日 各グループ毎の研究（レポート提案・授業研究提案）
- 8月20日 各グループ毎の研究（レポート提案・授業研究提案）
- 9月 4日 各グループごとの研究会（レポート提案・授業研究提案）
- 10月 2日 各グループ研究の経過及び県教研代表レポート交流学習会
- 10月25日・26日 県教研集会参加（南都留地区）
作文班 大國小学校の実践 読解班 山城小学校の実践
- 11月 4日 県教研還流報告・各グループ毎のレポート提案
- 1月27日 小・中合同学習会 講師 山梨大学教授 岩永正史先生
本年度のまとめと来年度の研究の方向性について

V 研究の反省と課題

一人一人が実践を持ち寄る研究方法をとったことで、提案に対してたくさんの質問が出され、様々な実践を知ることができた。一方、この形態は、短時間での提案になることが多く、じっくり時間をかけて検討することができないという短所もある。今後、さらにより進め方がないか検討を続けたい。

読解班 活動報告

1. 研究テーマ 「自ら学ぶ国語科学習のあり方」

2. 研究の方向性

- ①子どもたちに身につけさせたい力を明らかにし、それをもとにした実践を持ち寄る。
- ②レポート発表者の実践について研究討議を行う。

3. 研究経過

第1回(4/10) 組織作り 方針の決定 研究テーマの確認

第2回(5/15) 年間活動計画作成 県教研レポートについての検討(授業者の決定)

第3回(6/17) レポート提案①伊勢小「穂先の動きや点画のつながりを意識した書写指導」
善誘館小「コミュニケーションが苦手な児童の指導」
県教研レポートについての検討(単元の決定)

第4回(8/7) レポート提案②里垣小「書写におけるICTの活用に関する実践と、伝統的な言語文化『俳句』に関する実践」
授業研究報告(山城小)

第5回(8/20) レポート提案③相川小「文章構成や説明の仕方の工夫を読み取る実践」
大里小「登場人物の行動や会話から想像を広げた音読劇の実践」
授業研究報告(山城小)

第6回(9/4) レポート提案④舞鶴小「自分なりの見方で名画を読み取る実践」
附属小「挿絵や叙述に基づく想像を深める実践」
授業研究報告(山城小)

第7回(10/2) 作文班との交流 授業研究報告(山城小)

第8回(11/4) レポート提案⑤朝日小「丁寧な言葉で順序立てて話す力を育てる実践」
千塚小「説明行為を学ぶことを通して論理的な思考力を育てる実践」
県教研の還流報告

第9回(1/27) 学習会・今年度のまとめと来年度への課題

4. 実践の概要

第5学年国語科授業実践(山城小)

〈説明のしかたについて考えよう「天気を予想する」〉(読むこと)

〈理由づけを明確にして説明しよう「グラフや表を引用して書こう」〉(書くこと)

(1) 目指す言語能力

文章構成の工夫や資料の活用方法を活かし、自分の考えや意見を効果的に書く力

(2) 指導計画

1時間目 既習の説明文についての復習

2時間目 「天気を予想する」の段落並べ替えを行い、文章構成を読み取る

- 3 時間目 写真や図・グラフの効果について考える
- 4 時間目 結論のまとめ方について考える
- 5 時間目 語と語のまとめりや接続語について考える
- 6 時間目 意見文の書き方を知る
- 7・8 時間目 「これからの漁業について」の意見文を書く
- 9 時間目 書いた文章を推敲する
- 10 時間目 意見文を交流させる

本単元での学習の出口を「理由づけを明確にして説明しよう」と設定した。そのために、説明的文章「天気を予想する」の学習では、「文章構成の工夫」と「資料の活用」の2点を重点的に意識させながら読み進めていくことにした。

まず、文章構成の工夫については、筆者からの大きな「問いかけ」に対し、最後に「まとめ」があるという既習の文章構成のものと比較させながら読んだ。中心となる語句や段落どうしのつながりに着目させるために段落をバラバラにして並べ替える活動を行い、3つの「問い」と「答え」を繰り返しながら少しずつ自分の考えに近づいていき、最後に自分の考えを述べるという文章構成になっていることに気づかせるようにした。

資料活用については、「天気を予想する」の前半部分を中心に読み取らせていき、文章だけでは伝わりにくいことに気づかせたり、資料がなかったら読み手はどう感じるかなどを考えたりする中で、筆者がなぜ資料を用いて説明をしているかについて話し合わせた。また要旨に対して、資料の内容や種類（グラフ・表・写真）が適切であるかどうかを考えさせることで、目的に応じて資料を選択する力を育てるようにした。

5. 成果と課題

- 段落をバラバラにして並べ替えたことにより、文章を読んでいく際のポイントとなる言葉や文章に注目することができるようになってきた。
- 写真やグラフ・表の意義について学習したことで、他の教科においても表やグラフに注目して、変化の大きい数値に着目することができるようになってきた。
- 学習したことを生かして、社会で学習した漁業についての意見文を書く課題を設定した。自分たちが学習した内容から考えたということ、また、社会の学習とのリンクということで、表やグラフの効果というものをいっそう感じることもできた。
- 段落の並べ替えでは固定の段落をいくつか設定し、並べ替えの視点を提示して行ったが、どこから始めていいのか全くわからない児童もいたため、さらに準備が必要だった。
- 意見文を書く場面では、グラフや表に注目して文章を書くことができたが、自分の意見の裏付けにそれらの数値を有効に使うことができなかった。自分の考えを明確にし、その考えの裏付けを表やグラフで行うという手順をもっとしっかり押さえておくべきであった。

作文班 活動報告

1. 研究テーマ「子どもの意欲を高める作文のステップ」

2. 研究テーマ設定の理由

甲府市教育研究協議会小学校国語部会作文班では、「子どもの意欲を高める作文のステップ」をテーマに実践を持ちより、協議を通して研究を深めている。意見交換を通して、「意欲をもち、自分の思いを自分の言葉でのびのびと表現できる子ども」を育てていきたいという願いをもって研究に臨んでいる。

伝えたい相手があって、伝えたい感動や内容があること②伝えるための表現方法を知っていること。この両者が一体となったときに子どもの書く意欲の喚起と持続が期待できるのではないかという考えのもとに、私たちは相手意識や目的意識をもたせることや伝えるための表現技能をしっかり身につけさせることが大切に指導を行っている。

これまでは、5つの言語意識(相手意識、目的意識、場面・状況意識、方法意識、評価意識)の中の「相手意識」に焦点をあてて研究を行ってきた。持ち寄った実践は、日常的なもの・単元を構成したひとまとまりのものなどさまざまであったが、研究のテーマに沿ってその中でも「相手意識」に視点をあてた学習指導を行ってきた。

近年は部会員の変更や人数の減少があり、「子どもの意欲を高める作文のステップ」というテーマに沿った昨年度・今年度の各自の実践を持ちより、互いに学び合う方法で研究を進めている。

3. 研究方法

- 部会員一人ひとりがテーマに沿った実践を行う。
- 実践報告を持ちより、情報交換・協議を行う。

4. 研究経過

- 4月10日(木) 第1回部会総会研究会(研究の方向性確認)
- 5月15日(木) 第2回部会研究会(年間計画作成)
- 6月17日(火) 第3回部会研究会(レポート3本提案)
- 8月 7日(木) 第4回部会研究会(レポート3本提案)
第49次甲教協全体集会
- 8月20日(水) 第5回部会研究会(レポート3本提案)
- 9月 4日(木) 第6回部会研究会(県教研レポート検討)
- 10月2日(木) 第7回部会研究会(県教研レポート全体検討)
- 10月25日(土) 秋季教育研究集会
26日(日) 秋季教育研究集会
- 11月 4日(火) 第8回部会研究会(県教研レポート環流報告)
- 1月27日(火) 第9回部会研究会(講演・来年度の研究方向検討)

5. 実践の概要

各実践を持ちより、意見の交流を図った。昨年度の実践もあり、今年度の学習内容に参考にしたり、取り入れることができた。多くは、教科書の学習内容を基にした実践が寄せられた。

限られた授業時数の中で、書く力を身につけていくためにワークシートの工夫を考えたり、単元全体を見通した計画を立て、教科書の内容理解・学級全体で確認しながら書く・個人で書くというように、スモールステップをふまえて学習を進める方法を進めた実践が多くあった。

- ・つながりのある文や文章を書く～じどう車ずかんをつくろう～(小学1年)
- ・「いきものカードをつくってつたえよう」(小学1年)
- ・1年1学期における書くこと指導(小学1年)
- ・「書くこと」の実践(小学1年)
- ・きろくしよう「かんさつ名人になろう」(小学2年)
- ・「説明文において論理的思考力を育てるための効果的な方法を探る」
～「国語授業のユニバーサルデザイン」の視点を生かした授業づくり～(小学3年)
- ・読書生活について考えよう
～より豊かな読書生活のために、今の読書生活を見直そう～(小学4年)
- ・写真と文章で説明しよう「やさしいまちリーフレット」をつくろう(小学4年)
- ・自分の思いや考えを整理して書こう「随筆を書こう」(小学6年)

6. 県教研レポートの成果と課題(主なもの)

- ・読書生活について考えよう
～より豊かな読書生活のために、今の読書生活を見直そう～(小学4年)
- 苦手な児童でも書くことができるように、ワークシートを報告書の形式で作った工夫をしたことがとても効果的であった。
- グループ学習を取り入れたことで学習形態に広がりをもてた。苦手な児童にとってもよかった。
- グループでの作成になると、一人ひとりの「書く力」をみとる評価が難しい。
- 教科書の題材にとらわれがちであるが、児童が「書きたい」「まとめてみたい」という意欲をもって臨むことができるテーマを設けてあげるとさらによい。

7. 作文班の研究のまとめ

- 担任からみた子どもの実態から、それに適したアプローチの仕方を実践に取り入れることで、多様な見方・考え方を知ることができた。
- 作文班の人数が少ないので、今後の研究方法について討議が必要である。